



令和 8 年 6 月 号
杉並区立堀ノ内子供園
園 長 大塚 玲華

「人と人との直接的な関わり」 園長 大塚 玲華

5月にきりん組の子どもたちが電車に乗り、井の頭自然文化園に遠足に行きました。井の頭自然文化園では、様々な動物を観たり新幹線やメリーゴーランドの乗り物に乗ったりしました。子どもたちにとって、どの体験も楽しく、そして「自分たちだけで遠足に行った」という嬉しさもあり、心を動かされた出来事となったようです。

遠足の次の日から、早速乗り物や動物を作って遊ぶ子どもたちの姿がたくさん見られました。やがて「こんなに楽しい遊びなら『きりん組いのかしらこうえん』として、ぱんだ組とうさぎ組を招待しよう!」という気持ちになり、新幹線・はなこカフェ（食べ物屋さん）・動物園・ティーカップのコーナーを開くことになりました。やりたいコーナーの友達同士で集まり、どんな形や色にしたいか、どういう遊び方にしたいかなど、一人ひとりが思いをもちグループの友達と相談をしながら準備を進め、当日は大盛況に終わりました。

この取組の過程には、自分が取り組んでいるコーナーに合った思いや考えをもつこと・それを友達に伝えたり相手の思いや考えを聞いたりすること・自分と相手の考えに折り合いをつけたりするなど人との関わり方についての学びがあります。準備をする中で「自分はこうしたい」という思いを友達に伝えなかったり、伝えたけれども相手の思いと違ったりして、取組が止まってしまうこともありました。でも様々な取組の過程を経て、自分たちが考えたコーナーが形になり、ぱんだ組、うさぎ組の子どもたちが来てくれて「忙しかったけど、大成功した!」という達成感を感じたようです。閉店後には「やったあ!大成功!」と飛び跳ねて喜ぶ子どもたちの姿が見られました。

先日、文部科学省の幼児教育課企画幼児教育企画官の方のお話を伺う機会がありました。その中に「小中高生の子どもたちのインターネットの利用率やスマホの保有率は高い。デジタルが学校での学びに使われたり、すぐに情報を得ることができたりするメリットがある反面、子どもたちの育ちにとってデメリットとなる部分もある」という話がありました。インターネットや、ChatGPTなどのAIに触れる中で、自分の好む情報「だけ」に囲まれ多様な意見から隔離されやすくなる・同じような意見がSNS内などでのコミュニケーションで繰り返され、世の中一般においてもその意見を正しいものとして信じ込む・AIなどで使い方によっては自分のことを否定せずに話を優しく聞いてくれる存在となり違う意見に触れることがない、ということがデメリットとして挙げられていました。

実社会ではどうでしょう。生きていく上で様々な人と関わる場面はたくさんあります。そして関わる人が必ずしも自分とは同じ考えや思いであるとは限りません。また、関わる人と考え出し合い、ものごとを進めていかなくてもいけない場面は学校でも仕事でもあります。

このようなことを考えた時に、幼児期に友達や、保育者などの大人との直接的な関わりを通した経験をし、学んでいくことは、とても大切だということを改めて感じました。

今回のきりん組の活動の取組では自分の考えをもち相手に伝える、相手の考えを聞き思いがあることを知る、時には考えや思いが食い違って葛藤する、だけど友達と考えを合わせたら「とってもいいことができた!」という経験がありました。これはデジタルではなく対人間との直接的な体験の中でだからこそできた経験です。デジタルとの関わりはこれからの時代ますます増えていくことは避けることができませんが、幼児期に様々な人との直接的な体験をする中で関わり方を学ぶことは、これから周りの人と共に生きていく上での大切な土台になると考えます。同じ年の幼児同士だけではなく、保育者や保護者などの大人との直接的な関わりも大切です。保育者や保護者に自分の考えや思いを受け止めてもらった、話を聞いてもらった、自分とは違う気持ちがある人がいることを知ったなどの経験が友達と関わる力にもつながります。うさぎ組での保育者や保護者との関わりをスタートに、友達との関わりへ…様々な人との「直接的な関わり」の中での学びをこれからも大切にしていきたいと思います。



・ 今月の指導

うさぎ組

園生活に慣れ、朝の身支度や弁当の準備など自分の身の回りのことを保育者と一緒に自分でやってみようとする姿が増えてきました。ぱんだ組からもらったウレタン積み木を使って遊ぶことが楽しく、たくさん並べてみたり、お家やお店屋さん、病院、乗り物など作りたいと思ったものを作ったりして自分のやりたいことを見つけて遊ぶことを楽しんでいます。ごっこ遊びでは、自分の場を拠点に、保育者やクラスの他の幼児と関わったり、同じ場にいる幼児の存在を感じ、同じ場で過ごすことや同じことをして遊ぶことを喜んだりする姿も見られるようになりました。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 保育者の声掛けを受け、身の回りのことを自分でやってみようとする。
- 好きなことや自分のしたいことを見つけて遊ぶ。
- 保育者や身近にいる幼児と触れ合い、一緒に過ごす。

生活面でも遊びでも少しずつできることが増えてきて、嬉しい気持ちをもっている一方で、疲れが出たりすることもあるかもしれません。ご家庭ではぜひお子さんの気持ちを温かく受け止めてください。6月からは水遊びも始まります。水に親しみ、解放感を味わいながら、「水遊び楽しい！」という気持ちをたくさん感じられるよう段階的に活動を進めていきたいと思います。

ぱんだ組

「作ったワニで遊びたい」「お店やさんになりたい」とイメージを言葉にしたり、自分なりに作ってみたりするようになりました。思いを保育者に受け止められながら、遊びに必要なものや場を作ったり、なりたいたいものになりきって簡単に動いたりすることが楽しい今のぱんだ組です。

友達と一緒に場を作って共有したり、同じものを作ったり身に着けたり、同じ動きをしてみたりと、同じ遊びをしたい友達と“一緒”なことを嬉しく感じて遊ぶ姿も増えてきました。

学級では、「おおかみさん今何時」などルールのある鬼遊びや、ピアノのリズムに合わせた表現活動で友達と互いを見ながら動くことを繰り返す中で、みんなで集まる楽しさを感じています。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 自分の思いを動きや言葉、作ることなどいろいろな方法で表して遊ぶ楽しさを味わう。
- 保育者や気の合う友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる。
- 学級のみみんなで体を動かす心地よさや楽しさを感じる。

6月からは水遊びも始まります。個々のペースで水に親しんでいきながら、水の心地よさや全身を動かす解放感、学級のみみんなと動く楽しさを味わっていったらと思います。

暑い日が増え、疲れも出てくる時期かと思います。ご家庭ではゆったりとお子さんの気持ちを受け止めていただき、園とご家庭での姿を共有しながら、一緒に見守っていったらと思います。

きりん組

きりん組になって使えるようになった巧技台やキングブロックなどを使って遊ぶことを楽しんでいます。遠足へ行った後は3～5人の友達と「〇〇をつくる」という共通の目的をもって一緒につくることを楽しんでできました。使えるようになった遊具や素材を組み合わせ、思いを実現しています。また、自分の思いを友達に伝えたり、友達の気持ちを聞いたりする中で、思いを保育者と一緒に調整していました。友達と一緒に目的を実現できた達成感をもっていました。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 自分の遊びを「こうしたい」という思いや願いをもち、実現していこうとする。
- 自分の考えを友達に伝えたり友達の話を聞いたりしながら、一緒に遊びを進めていこうとする。

年長に進級し2か月が経ちました。友達との間で折り合いをつけようとする場面も増えていきます。水遊びも始まって楽しいことが続きますが、疲れも出てくる時期です。ご家庭ではゆったりとお子さんの気持ちを受け止めていただき、気になる様子があればお気軽にお知らせください。